

男子埴輪大研究！？～東国文化PR大作戦～

太田市立太田中学校1年B組25番羽中田桜花



僕たちに会いに来て
群衆で君を待ってるよ♡



男子埴輪大研究！？～東国文化PR大作戦～

太田市立太田中学校1B25羽中田桜花

研究動機

昨年、東国文化自由研究で、群馬の女子埴輪について調べた。その際、埴輪にはいろいろな特徴があることが分かり、埴輪に興味を持った。そのことから、今年は、男子埴輪について調べ、男子埴輪には、どんな特徴があるのかを調べてみたいと思ったから。また、「HANI-本」で武人・貴人埴輪を見ていた際、「群馬県で出土された埴輪はスタイルが良く、鼻もシュッと高くイケメンだ」と思い、他にどんなイケメン埴輪がいて、他県で出土された男子埴輪と何が違うのか、とても興味を持ったからだ。私自身、東国文化自由研究をするまで、東国文化のことや、群馬県の古墳、埴輪についてあまり知らなかったの、まだまだ認知度が低いと感じる。そこで、研究結果をもとに東国文化PRポスターを作り、群馬県で出土された埴輪の魅力を群馬県民はもちろん、他県の方にも知ってもらいたい。東国文化にもっと興味を持ってもらうきっかけを作りたいと考えたことが、研究動機である。

研究目的

群馬県から出土された男子埴輪と、他県で出土された男子埴輪の違いを比較、検討し、研究したいと思う。そして、他県との違いから、群馬県の東国文化の特徴をまとめ、東国文化に興味を持ってもらうきっかけを作りたいと思う。

研究方法

実際に群馬県立歴史博物館や埼玉県立さきたま史跡の博物館に行ったり、HANI-本やインターネットを使ったりして、男子埴輪をについて調べ比較検討する。

- ①HANI-本で群馬県から出土された男子埴輪を見る。また、高崎にある群馬県立歴史博物館で、実際の男子埴輪を見学してくる。
- ②群馬県出土の男子埴輪と、他県出土の男子埴輪を比較研究するため、実際に博物館（今回は家から20分程近くのお隣、埼玉県にある、埼玉県立さきたま史跡の博物館）を見学したり、インターネットを使ったりして、埼玉県から出土された埴輪と群馬県から出土された埴輪の特徴を比較検討する。
- ③群馬県出土の東国文化に興味を持ってもらうため、アプリ（snow）を使って、埴輪を現代風の顔にする。その後、イケメン男子埴輪を使って、東国文化PRポスターを作成する。

研究内容

♥群馬県出土の男子埴輪♥



- ①群馬県太田市飯塚町で出土された桂甲武人埴輪。埴輪で初めて、国宝に指定され、一昨年の群馬県のHANI-1グランプリでは100体中7位に入賞している。体には桂甲をまとい、脚には膝甲と臍当てをつけている。さらに、右手は大刀の柄、左手には弓を握っており、背中には矢を入れるゆぎを背負っている。完全装備した武人を美しく表現している。実際、群馬歴史博物館で開催中の『古墳大国群馬へのあゆみ』という特別展に行き、桂甲武人埴輪のレプリカを見たが、細部まで丁寧に作られていたまた、鼻が高く、顔が整っていて少年のような、きれいな顔をしていた。



②伊勢崎市安堀町で出土された挂甲武人だ。①の国宝の武人と顔がそっくりだ。同じ職人が作ったのではないかと考えられている。私は、きっと兄弟だったのだと感じた。冑や小札鎧、両手を攻撃から守る籠手、弓を射る際の防具である鞆、左腰の大刀や弓は共通している。逆に、背中のゆぎはなく、胡縁を下げていたり①の国宝は完全装備なのに対して、この武人は袴をはいているという違いがある。精巧に作られたこの埴輪から、古代の豪族がどのように甲を身につけていたかがよく分かる。とても優しそうな顔をしている。鼻が小さく、お腹周りがスッキリしていて、スタイルがよい。



③太田市成塚町で出土された剣を持つ挂甲武人埴輪だ。この埴輪は①の国宝の埴輪と比べると、顔の比率が大きく、少年のような印象を受ける。弓を入れるゆぎを背負い、弓を持ち、右手で大刀の柄を握り、抜刀するようすなどは共通している。しかし、②の埴輪のように脚には膝甲や臑当てをつけず、袴のままだ。この袴にはギザギザ文様があり、白色と赤色で交互に色付けされている。さらに、膝の下には可愛い蝶結びの脚結というヒモも表現されている。細部まで表現がとても丁寧だ。鼻小さいのに目が大きく、かわいらしい印象を受ける。



④太田市塚廻り古墳群第4号古墳から出土された跪坐の男子だ。まさしくひざまづく姿の模範といっても過言ではない姿勢・表情である。手もピシッと揃えられ、相手を見つめる姿には誠意が感じられる。この姿勢は日本独自のもので、中国の歴史書「魏志倭人伝」にも珍しい風習として紹介されている。ひざまづく姿勢の埴輪としては唯一のもので、名人級の職人が作ったと思われる。また、これは謝っているのではなく、王様に敬礼をしている姿で、正座ではなく、つま先が立っている。後ろ髪は真ん中くらいまであり、ふり分けた髪はきれいに整えられている。礼儀正しくお辞儀をしており、顔も塩顔のイケメンだ。



⑤伊勢崎市豊城町で出土された埴輪男子立像頭に三角形の縦じま模様様の冠を乗せていて、その下にL字形の下げ美豆良を垂らしている。首にはネックレス、その下には服の結び目がある。ベルトはおしゃれに二重巻きし、右側に結び目を垂らしている。また、両手には籠手をつけ、左腰に大刀と鞆を下げています。両足は比較的簡素な作りで、下半分のは広がる裾が表現されている。ネックレスも一粒一粒丁寧に作られている。とても豪華だ。一見女性のようにも見える。目が大きいのにに対して、口は小さく、とても可愛い。



- ⑥ 榛東村高塚古墳で出土された武装男子埴輪。武人埴輪では古いタイプだ。左手で大刀を持ち、右手を柄頭にそえ、邪悪なものに今にも斬りかからんという抜刀のスタイル。ふっくらと目立つズボンのような衣には、唐草文様風の柄がデザインされている。挂甲を身に着けてはいるが、他の武人埴輪と比べ、どこか若々しく、軽やかな身のこなしを想像させる、少年のような武人に見える。今で言う大工さんのようなズボンを履いていて、柄まで細かく丁寧に表現されている。鼻もシュツとしていてクールなイケメンだ。



- ⑦ 高崎市綿貫観音山古墳で出土された両手を腰にあてる振り分け髪の男。大きな美豆良と左右に振り分けた髪型がとても特徴的だ。鈴付きの帯を締め、上衣の裾にも鈴をつけている。これは、同じ古墳から出土した「胡坐し合掌する男」に共通するいでたちだ。この埴輪は、財物（宝物）を誇示する埴輪列の先頭に位置して着飾った王を表現していると考えられている。振り分けた髪もしっかりときまわっていて、切れ長の目元に、鼻も高く、とてもイケメンだ。



- ⑧ 高崎市八幡原町で出土された盛装男子埴輪だ。絵本に出てきそな冠をかぶり、長い髪を結び、顔にお化粧をして首飾りをつけた、まさしく古墳の被葬者である「王」の埴輪である。あぐらをかい左腰に下げた刀に手をやる瞬間だ。冠と腕と胴体の一部は補修だが、ほかの部分は実物がのこっている。背中まで造形がしてあるので、服装も推定できる。王様だけあって、王冠がより丁寧に作られている。王冠の柄も書いているだけでなく、一つ一つ柄の形をり、くっつけてあり、細かい。目も大きく、鼻も高く、とても凛々しく感じる。

♥埼玉県出土の男子埴輪♥



⑨埼玉の行田市稲荷山古墳周堀で出土された冠をかぶる男子（頭部）。頭上端から頸部まで残存する人物埴輪。頭には帽子あるいは冠状の被り物を付けている。この被り物には、正面にU字状の切り込みがあり、正面が高く背面が低い。両目の目頭・目尻の下から両頬面に、斜めに二本単位の線刻が合計八本施されており「入れ墨」の表現と考えられる。稲荷山古墳の周堀出土人物埴輪には、この埴輪と同様の顔面入れ墨が施されている「盾持ち人」の埴輪があるため、この埴輪も「盾持ち人」と考えられるが、群馬県出土の埴輪に比べて細部まで細かく表現されていないと感じる。



⑩埼玉県熊谷市野原字宮脇野原古墳出土の踊る人々だ。踊る男女とも呼ばれる特徴的な人物埴輪である。双方とも下半分を推定復元しているが、小さい方の美豆良をつけ、腰紐の後ろに鎌を指している方が男性で、おそらく農夫を表しているだろう。大胆にデフォルメされた顔に、左手を挙げたポーズから剽軽に踊る人々を連想させるが、同じ古墳からは儀式に参列する人物を表したとみられる埴輪が多く出土しており、おそらく殯などの葬送の場における歌舞の姿を写したものと見られる。手の指が表現されていなく、群馬県出土の埴輪に比べ、こだわりが感じられず、とても簡単に作られていると感じた。まるで子供が作ったみたいだなと感じた。



感

⑪内牧塚内4号墳から出土された人物埴輪だ。この埴輪は、古代男性をかたどったものだ。頭部の中央から左右に髪を分け、耳横に美豆良を下げ、首には飾りの玉が垂らされ、耳は円孔で表されている。顔の部分にはわずかに赤い模様（朱彩）が見える。群馬県から「出土した両手を腰に当てる振分け髪の男、振分け現に比べると、振分け髪の表現からして貧素に作られていると感じた。



⑫小島の「前の山古墳」から出土した、全国的にも珍しい笑情をつ「盾持人物埴輪」。本庄市のマスコット「はにぼん」のモデルとなっている。この埴輪は、平成24年10月から12月までパリ開催された「日本美術が笑う」展に出品され世界デビューした。しかし、群馬県出土の男子埴輪と比べると帽子や服装の細かい点が表現されていないと感じた。



⑬梅塚古墳で出土された天冠をいただく美豆良の男子だ。群馬県出土の埴輪とは違い、美豆良（髪型）や冠、服もとても簡単に作られている。服は粘土を胴体に巻いたようなもので模様もない。手も指がなく、粘土を丸めて伸ばしたような感じだ。イケメンとは言い難い。



⑭稲荷山古墳から出土された帽子をかぶる男子だ。目が細く、しかも、左と右の目の大きさが等しくない。鼻も小さく、上に向いていてバランスが悪い。帽子も頭と同じ大きさ（本来は、頭より帽子のほうが大きいのに）で一体化している。模様もなく、ただの布のような感じがする。簡素な作りだと感じた。



⑮埼玉の行田市稲荷山古墳周堀で出土された武人埴輪の頭だ。目庇付冑をかぶった武人埴輪の頭部。冑の上端肩部から下を欠失する。冑の鉢部が人間の首まで覆うほど深く作られ、庇が垂直に曲がって垂れ下がるのは、実物と多少異なる。横方向の線刻と小さな粘土の瘤の貼り付けで横矧板鉾留を表現。顔は粘土板を貼り付けて作り、そこに鼻を貼り付けて作られている。顔面は丁寧になでられ、赤色顔料が顔・首に塗られている。目や鼻、口などが顔の中央によっていて、顔の輪郭に対して、バランスがとても悪いと感じる。

まとめ

埴輪には、円筒埴輪、家形埴輪、人物・動物埴輪などたくさんの種類がある。群馬県で出土した埴輪と埼玉で出土した埴輪と比較してみると、群馬県では、太田市飯塚町で出土された桂甲武人埴輪や昨年度、国宝に指定された綿貫観音山古墳から出土された三人童女などが国宝に指定されている。どの埴輪を見ても、一つ一つ細かい部分まで丁寧に作られている。他県で出土された埴輪と比べると、当時、群馬県にいた工人の熟練の技を感じることができる。人物埴輪だけではない。馬の埴輪を見ても、とてもリアルに作られている。このことから言えることは、群馬県にいた工人は、より本物に近く、忠実に作るのが得意だったのではないかということだ。だから、今回調べた、男子埴輪もモデルとなった人が「俺、ブサイクなんで、実物よりかっこよく作って下さい。」と頼んでイケメンに仕上げたのではなく、きっと、古墳時代に本当に群馬にいた人はかっこよかったのだと考える。また、群馬の①、②の埴輪のように顔が似ている埴輪もあれば、とても精巧に作られていても、顔の雰囲気が全然違う埴輪があることから、それぞれ、作っている窯（人）が違うのではないかと思った。埼玉県立さきたま史跡の博物館の学芸員さんにお話を伺うと、出土された場所によって、作られた窯が違い、稲荷山古墳などで出土されているものは鴻巣窯で作られた。ということが分かった。そし

て、群馬県から出土された埴輪は、太田窯や藤岡窯で作られていたが、異なる窯や、異なる工人が作っているにも関わらず、全体的に、細かく丁寧に作られており、上手なのは、やはり、群馬には特に優れた工人が集まっていた証拠ではないかと考えた。また、群馬県の工人が他県とは違い、非常に高い技術力、熟練の技を持っていたことから、当時の群馬県の権力者は強大な力があり、ヤマト大権から重要視されていたことが伺える。そのことにより、有能な人材を育成したり、雇ったりできたと考ええる。

⇒群馬にいた工人は他県の工人とは比べ物にならないほど、すごかった！！それだけ群馬県は古墳時代に栄えていた、ヤマト王権との結び付きも強く、有力者がいたと言える！！

ちなみに、みなさんは、どちらの県の埴輪の顔が好みだろうか？人によって、好みは別れてくるが、私だったら、群馬県で出土された埴輪の方がタイプだ。家族にも聞いてみるとみんな群馬の埴輪の顔の方がタイプらしい。これだけだと家族のみ意見なので、高崎市で開催されていた『古墳大国群馬へのあゆみ』というイベントで埴輪について説明して下さった方や、埼玉県立さきたま史跡の博物館の学芸員さんにも聞いてみた。やはり、群馬と埼玉とを比べてみると、群馬県出土の男子埴輪の方が、精巧に作られているし、顔もイケメン揃いで、群馬県出土の埴輪の方がタイプらしい。（ご協力ありがとうございました！）

～東国文化PR大作戦！！～

以前から若者に人気のsnowというアプリの漫画・イラストモード（老若男女、特に子供や若者にも興味を持ってもらうために）を使って、埴輪を現代風（イラスト）の顔に修正してみる。そして、東国文化の魅力を伝えるPRポスターを作り、より群馬に興味を持っていただき、実際に群馬へ足を運んでもらい、東国文化を直に肌で感じてもらうきっかけになればと思い、作成しようと思った。

☆群馬

武装男子埴輪（榛東村高塚古墳）

挂甲武人埴輪（太田市飯塚町）

加工前



加工後



加工前



加工後



盛装男子埴輪（高崎市八幡原町）

跪坐の男子（太田市塚廻り古墳群第4号古墳）

加工前



加工後



加工前



加工後



剣を持つ挂甲武人

加工前



加工後



埴輪挂甲武人（伊勢崎市安堀町）

加工前



加工後



埴輪男子立像（伊勢崎市豊城町）

両手を腰にあてる振り分け髪の男（高崎市綿貫観音山古墳墳）

加工前



加工後



加工前



加工後



引用・参考文献

- ・ HANI-本あなたの知らない、はにわの世界イチ押しはにわ200体
- ・ 群馬県立歴史博物館
- ・ 埼玉県立さきたま史跡の博物館
- ・ 東国文化副読本（2021年度版）
- ・ aas-kitammuse.spec.ed.jp/
- ・ tnm.jp/modules/r_collection/index.php?controller=dtl&colid=j21428x
- ・ boe.kasukabe.saitama.jp/siryokan/shuuzo02.html
- ・ sakitama-muse.spec.ed.jp
- ・ youtube.com/watch?v=if9uVWVHV98
- ・ sakitama-muse.spec.ed.jp/
- ・ sankokan.jp/selection/antiquities/a_j_seisodansii.html

作成したポスターはこちら

僕たちに会いに来て

群馬で君を待ってるよ♡



魅力がいっぱい♡東国文化

感想

昨年度は群馬県出土の女子埴輪と、他県出土の女子埴輪について調べた。群馬県から出土した女子埴輪には、他県にはない特徴があった。このことから、群馬県出土の男子埴輪はどのようなのだろうかに興味を持ち、今回は、男子埴輪について調べてみた。女子埴輪にも良いところがたくさんあったが、男子埴輪にも様々な特徴があり、イケメン埴輪もたくさんいることが分かった。女子埴輪と同様に男子埴輪からも、古墳時代の群馬のすごさ（強大なヤマト大権との結びつき）を感じることができたと思う。また、東国文化の魅力を伝えるPRポスターを作成するのが難しかったが、楽しみながら作れたと感じる。これを見て、たくさんの方々に群馬の魅力を知っていただき、ぜひ、群馬に足を運んでほしいと考える。今後も、群馬が誇る「東国文化」を知り、さらに理解するために、埴輪だけでなく、古墳などにも興味を持ち、調べ、研究していきたいと思う。もっともっと群馬を知り、魅力を発信していけたらと考える。